

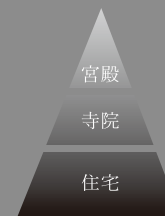
日中韓の建築文化と棟梁

高級建築の特色

大工の技

棟梁の役割

宮殿を最高級とする
中国古代建築は社会的な序列を表現する。皇帝の建築である宮殿を頂点とした、ピラミッド型の様式をもつ。



紫禁城(故宮)

規範と合理性の発展

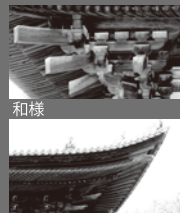
韓国の建築も中国の影響を受け宮殿を最高級とする規範をもつ。一方、朝鮮時代には材料の調達や工費などの合理化が進展した。



禪宗様

多彩な様式の展開

日本の建築は堂宇や住宅、数寄屋など特徴ある様式が存在する。このなかで最高級とされる堂宇建築でも、伝統的な和様、中国大陸の影響が強い禪宗様や大仏様などがある。



禪宗様



薬師寺東院堂

社会的格式の表現

社会的な格式にしたがって、寸法・形状を決定する。宮殿はが謳歌絢爛な彩色で仕上げられる。



華麗な彫刻

韓国の宮殿も豪華絢爛な彩色を施すのは中国と同様だが、組物に華麗な彫刻を施すのが特徴。



精緻な仕上げ

日本の堂宇建築には主に「檜」が使われた。中国・韓国と異なり、素木そのものの木目の美しさをみせる繊細な仕上げが発達。



大木匠師

建築に携わる職種に瓦・木・足場(瓢湖・ひょうこ)という「八大作」はちたいたいさくがある。そのなかで、「木作」を指揮する職人が「大木匠師」。棟梁は「正彎尺(せいわんしゃく)」「彎尺とは曲尺のこと、あるいは「掌線師傅(しようせんしふ)」「墨線を握る師」とも呼ばれる。その重要な仕事に墨付けがある。



伝説的な名匠・魯班
『魯班神明版画』(19世紀)より

大木匠

韓国で大工仕事は「大木」と「小木」に分かれる。大木は建物の主な骨格、つまり柱・梁・桁・垂木などを組み上げて建物をつくる仕事。小木は建具・扉・家具などをつくる仕事である。大木匠はこの大木の作業を束ねる存在。



梓鋸を使い大工
『笑山風俗図画帖』(18世紀)より

棟梁

建物の頂点に位置する「棟木」の言葉通り、棟梁は幅広い建築諸職を束ねる存在。日本建築は木が主体ゆえに、大工の棟梁が全体計画から組物や天井などの細部におよぶ工事を総括する。



墨掛棟梁の姿
『規矩真術軒廻図解』より

日本 小川三夫
Ogawa Mitsuo



韓国 申鷹秀 (シン・ウンソ)
Shin Eoungsoo



中国 李永革 (り・えいかく)
Li Yongge

